

2010年3月期 第2四半期決算の概要

■ 連結決算の概要

売上高：ジェネリック医薬品が24.0%の増収となり、全体では5.8%の増収

2010年3月期第2四半期の連結売上高は前年同期間比5.8%の増収となりました。

特にジェネリック医薬品はDPC病院での需要増に加え、昨年度発売したアムロジピン錠「ケミファ」の寄与により、同24.0%の増収となりました。一方、主力品においては、ほぼ計画通り、5.3%の減収となりました。

利益：営業利益は約3.0倍、経常利益は約4.8倍の増益。当期純利益は黒字化を達成

利益面では原価率の上昇がみられたものの、昨年来、継続して取り組んできた経費適正化の効果を受け、ほぼ当初計画通り営業利益は同約3.0倍、経常利益は同約4.8倍の増益となりました。また、当期純利益においても、ほぼ計画通り黒字化を果たす事ができました。

■ 2010年3月期第2四半期 連結損益の概要

(金額：百万円)

	2009年3月期 第2四半期		2010年3月期 第2四半期			2010年3月期 予想	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	増減率(%)	金額	進捗率(%)
売上高	10,951	100.0	11,581	100.0	5.8	23,600	49.1
売上原価	5,038	46.0	5,577	48.2	10.7		
原価率増減P				+2.2P			
販売管理費	5,819	53.1	5,724	49.4	△1.6		
販管比率増減P				△3.7P			
営業利益	93	0.9	279	2.4	約3.0倍	750	37.2
経常利益	42	0.4	205	1.8	約4.8倍	500	41.0
当期純利益	△59	—	46	0.4	黒字化	200	23.0

■ 医薬品売上高の概況

1. 実績比較

ジェネリック医薬品が前年同期間比 24%と大幅に増収したことが寄与して、医薬品全体では同 12%の増収となりました。特に昨年発売したアムロジピンは同 3.2 倍の増収となりました。

2. 計画に対する進捗状況

主力品は通期計画に対して 50.2%の進捗、ジェネリック医薬品についても同 48.8%の進捗となっており、ほぼ予想通りの実績となりました。

なお、通期では、アムロジピン OD 錠「ケミファ」（口腔内崩壊錠）をはじめ、11月に新発売予定の新規発売品目の売上が、第3四半期以降の業績に寄与する見込みであり、通期予想は達成できる見込みです。

主要品目の売上状況

(金額：百万円)

	2009年3月期 第2四半期		2010年3月期 第2四半期			2010年3月期 予想	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減率 (%)	金額	進捗率 (%)
医療用医薬品合計	9,431	100.0	10,560	100.0	12.0	21,415	49.3
主力品計	3,871	41.0	3,666	34.7	△ 5.3	7,300	50.2
ウラリット	1,722		1,731		0.5	3,500	49.5
ソレトン	1,809		1,623		△ 10.3	3,200	50.7
カルバン	340		312		△ 8.2	600	52.0
ジェネリック医薬品	5,560	59.0	6,894	65.3	24.0	14,115	48.8
プラバスタチン	596		615		3.2	1,260	48.8
アムロジピン	257		813		約3.2倍	1,800	45.2
ボグリボース	399		487		22.1	950	51.3
ランソプラゾール	252		416		65.1	700	59.4
その他	4,056		4,563		12.5	9,405	48.5

■ 研究開発費等

(金額：百万円)

	2009年3月期 第2四半期		2010年3月期 第2四半期			2010年3月期 予想	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減率 (%)	金額	増減率 (%)
研究開発費 (連結)	706	6.4	790	6.8	11.9	1,630	14.2
減価償却費 (連結)	256	2.3	301	2.6	17.6	630	8.6
設備投資額 (連結)	476	4.3	239	2.1	△ 49.8	660	△ 25.8

本資料に関するお問い合わせ先

日本ケミファ株式会社 広報室 電話：03-3863-1211

※本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。